

消防千葉

2025 No.608 令和7年3月号

目次

巻頭言(市原市消防局長)	2
令和6年度臨時理事会	3
令和7年新春出初式	4・5
令和6年度叙勲・褒章等受章者	6・7
令和6年度女性消防団員活性化シンポジウム	8
令和7年度消防防災科学技術賞の作品募集	9
東西南北	10～13
日々の動き	14



きさらづ防災フェスタ 2024 における消防団 PR 君津支部

巻 頭 言

「ウェルビーイングの高い
まちの実現を目指して」

市原市消防局長 石井 隆治



市原市は千葉県のほぼ中央に位置し、都心から50km圏内で東京駅、羽田・成田両空港まで約60分という立地で、自然、歴史、産業、スポーツが融合した多彩な魅力のあるまちです。

南部の養老溪谷では、四季折々の美しい里山の風景が広がり、この里山を背景に小湊鐵道が走る姿は多くの人々を惹きつけています。さらに、令和2年1月、約77万年前の地磁気逆転現象の時代が「チバニアン」(Chibanian:千葉時代)と命名され、この地層が世界中で最もよく観察できる場所として、養老川流域に時代境界となるゴールデンスパイクが設置されています。

臨海部には石油化学工業を中心とした大手企業によるコンビナート群が形成され発展し、最近では、「工場夜景」という新たな観光資源としても注目されています。また、県内では最も広い市域を有し、日本一のゴルフ場数を有する「ゴルフの街いちほら」ほか、様々な分野で市原市の魅力を発信しております。

さて、近年、気候変動に伴う激甚化、頻発化する自然災害や今後発生が危惧される巨大地震等の大規模災害など、防災・減災に対する市民の関心が高まる中、我々消防には、その備えと対応が強く求められています。このような中、市原市消防局は、1局4課6消防署3分署で構成され職員数373名で市原市民の「安全・安心」を守っています。

東日本大震災の教訓から石油コンビナート災害に備え、毎分1万リットルの放水が可能な大容量放水砲搭載車を中核としたエネルギー・産業基盤災害即応部隊(通称:ドラゴンハイパー・コマンドユニット)及び爆発や輻射熱により隊員が近づけない災害に対応するため、4機のロボットが自律・協調連携して活動する消防ロボットシステム(通称:スクラムフォース)が全国で初めて配備されています。

しかし、あらゆる災害に対して消防行政のみで対応することには限界があるため、以下の取り組みを行っています。猛威を振るう自然災害への対応として、土砂災害に伴う人命救助事案が発生した際に、ショベルカー等の重機を使用した迅速な救助活動を行うため、(重機を所有する)建設業界と連携協定の締結を進めています。また、医療との連携では、市内2医療機関のドクターカーによる連携することで、救命率の向上と後遺症の軽減を図るとともに、増加する救急需要対策として、令和7年4月からの「日勤救急隊」など、救急体制の強化を進めています。このほか、消防職員の課題である定年延長対策として、市内大学の健康医療スポーツ学部と連携し、「健康増進・体力維持プログラム」の策定に着手しています。

市原市消防局は、今後も官民連携を強化し、誰もが安全で安心して暮らせるまち、災害に強いまち、ウェルビーイングの高いまちの実現を目指し、職員一人ひとりが「一隅を照らす」の精神をもって、全力で業務に取り組んでまいります。

令和6年度 (公財)千葉県消防協会臨時理事会

千葉県消防協会臨時理事会が令和6年12月24日（火）に千葉市内で開催されました。

理事会は、石橋会長の挨拶の後、3議案について審議が行われ、議案第1号は、柏市消防団女性分団を令和7年10月28日（火）開催予定の第26回全国女性消防操法大会の出場隊にすることが決議されました。

議案第2号は、規程を改正することが決議され、令和7年4月から、消防職員に対する修学奨励金等（記念品）は千葉県消防学校初任科を卒業した者に限ることになりました。

議案第3号は、協会長の職務を代行する順位は、芝岸副会長、吉野副会長、佐藤副会長、鎌倉副会長、白井副会長とすることが決議されました。

【臨時理事会】

◆ 議 案

議案第1号：第26回全国女性消防操法大会出場隊の決定について

議案第2号：公益財団法人千葉県消防協会修学奨励金等贈与規程の改正について

議案第3号：千葉県消防協会会長の職務を代行する順序について

◆ 報告事項

○令和6年5月以降の職務の執行状況について

○公益財団法人千葉県消防協会の資産運用について

◆ その他

○令和7年の出初式の日程について

○第75回千葉県消防大会の実施要綱について

○令和7年度日本消防協会の主要行事予定(案)について



石橋会長挨拶



令和7年新春を迎え 県内各地で消防出初式開催

令和7年の新春を迎え、恒例の消防出初式が1月11日（土）を皮切りに2月9日（日）の成田市までの間、県下48全ての消防団において消防職・団員をはじめ消防関係者参加のもと執り行われました。

消防出初式は、新しい年を迎え、消防職・団員が地域の安全・安心を守る職責の自覚を新たにし、防火・防災に対する消防人の心意気を示すとともに、地域住民の防災意識を高めるために毎年実施されております（※令和3年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全ての消防団が中止）。

各会場には熊谷千葉県知事、石橋消防協会長、消防協会各支部長などが出席し、人員、器具の点検に始まり、パレードや分列行進などが規律正しく行われ、長年功労のあった消防団員の表彰等も行われました。

開催された消防出初式の様子を写真により一部紹介します。

☆市川市消防出初式 1月11日（土）



☆千葉市消防出初式 1月11日（土）



☆多古町消防出初式 1月12日(日)



☆東金市消防出初式 1月13日(月)



☆銚子市消防出初式 1月19日(日)



☆成田市消防出初式 2月9日(日)



多年の労苦に輝く栄光

主な受章者の紹介

《春の叙勲 9 名》

(瑞宝小綬章)

元 千葉市消防局 消防司監 石井 幸一

(瑞宝単光章)

元 流山市消防団 分 団 長 大熊 康弘

元 四街道市消防団 分 団 長 海保 和光

元 山武市消防団 副 団 長 北田 康晃

元 松戸市消防団 副 団 長 齋藤 隆

元 成田市消防団 分 団 長 佐瀬 次郎

元 我孫子市消防団 分 団 長 鈴木 等

元 船橋市消防団 副 団 長 須藤 喜一

元 いすみ市消防団 副 団 長 高橋 聡

《秋の叙勲 11 名》

(瑞宝小綬章)

元 成田市消防本部 消防正監 内田 廣

元 市川市消防局 消防正監 鈴木 富雄

(瑞宝双光章)

元 富里市消防団 団 長 秋葉 政則

元 九十九里町消防団 団 長 古川 克俊

(瑞宝単光章)

元 御宿町消防団 団 長 井上 峰男

元 香取広域市町村圏事務組合香取市消防団

副 団 長 久保木新司

元 八千代市消防団 団 長 高橋 章夫

元 千葉市消防局 消防司監 和田 雅巳

元 千葉市消防団 副 団 長 星野 力藏

元 市川市消防団 団 長 高橋 廣孝

元 勝浦市消防団 副 団 長 谷 郁男

《第 42 回危険業務従事者叙勲 33 名》

(瑞宝双光章)

元 君津市消防本部 消防 監 青木 一志

元 印西地区消防組合消防本部

消防 監 浅野 富雄

元 松戸市消防局 消防 監 浅野 正弘

元 船橋市消防局 消防 監 石井 由夫

元 印西地区消防組合消防本部

消防 監 伊藤 実

元 佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部

消防 監 岩瀬 孝行

元 浦安市消防本部 消防司令長 岩瀬 信彦

元 浦安市消防本部 消防司令長 大塚 壽

元 四街道市消防本部 消防司令長 鈴木 義美

元 松戸市消防局 消防 監 高橋 稔

(瑞宝単光章)

元 船橋市消防局 消防司令長 青柳 明

元 君津市消防本部 消防司令長 小山 金雄

元 野田市消防本部 消防司令長 染谷 文夫

元 成田市消防本部 消防司令 高橋 平八

元 千葉市消防局 消防司令長 田中 正明

元 松戸市消防局 消防司令長 永井 務

元 君津市消防本部 消防司令長 竹林 好夫

元 市川市消防局 消防 監 玉置 次郎

元 野田市消防本部 消防司令長 戸辺 義雄

元 四街道市消防本部 消防 監 西岡 亨

元 柏市消防局 消防 監 風澤 喜治

元 野田市消防本部 消防司令長 藤井 定夫

元 袖ヶ浦市消防本部 消防 監 古川 和行

元 香取広域市町村圏事務組合消防本部

消防 監 細根 信彦

元 船橋市消防局 消防 監 真木 照

元 成田市消防本部 消防 監 八木 正道

元 習志野市消防本部 消防 監 横山 貢

元 市川市消防局 消防 監 吉野 満

元 船橋市消防局 消防司令長 林 秀夫

元 夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部

消防司令長 藤江 義博

元 千葉市消防局 消防司令 堀口 正

元 千葉市消防局 消防司令 森 満

元 成田市消防本部 消防司令長 横田 美好

《第 43 回危険業務従事者叙勲 32 名》

(瑞宝双光章)

元 市川市消防局 消防 監 秋本 清

元 松戸市消防局 消防司令長 阿部 清隆

元 船橋市消防局 消防 監 石井 忠

元 柏市消防局 消防 監 伊能 正光

元 市川市消防局 消防司令長 岩崎 修

元 市川市消防局 消防司令長 大杉 耕司

元 松戸市消防局 消防 監 太田 孝雄

元 山武郡市広域行政組合消防本部

消防 監 小川 武彦

元 成田市消防本部 消防 監 小川 晴夫

元 旭市消防本部 消防司令長 鎌形 文夫

元 船橋市消防局 消防 監 齋藤 文夫

元 松戸市消防局 消防 監 齋藤 光雄

元 香取広域市町村圏事務組合消防本部

消防 監 篠塚 正

元 袖ヶ浦市消防本部 消防司令長 新藤 和巳

元 千葉市消防局 消防 監 高柳 正守

元 佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部

消防 監 高山 文男

元 野田市消防本部 消防 監 深井 芳人

元 山武郡市広域行政組合消防本部

消防 監 三須 知之

元 柏市消防局 消 防 監 木村 浩一
元 長生郡市広域市町村圏組合消防本部 消 防 監 朽木 保雄

《瑞宝単光章》

元 千葉市消防局 消 防 司 令 井手 公一
元 千葉市消防局 消 防 司 令 太田 泰彦
元 千葉市消防局 消 防 司 令 岡本 明夫
元 千葉市消防局 消 防 司 令 小見川武男
元 成田市消防本部 消 防 司 令 香取 照男
元 船橋市消防局 消 防 司 令 川西 利通
元 佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部 消 防 司 令 鈴木 薫

元 夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部 消 防 監 米倉 正男

元 山武郡市広域行政組合消防本部 消 防 司 令 鈴木 正弘
元 柏市消防局 消 防 司 令 戸井崎 勝
元 君津市消防本部 消 防 司 令 藤平 伸廣
元 千葉市消防局 消 防 司 令 宮尻二三男

《春の褒章 4 名》

《藍綬褒章》

船橋市消防団 副 団 長 青木 敏人 四街道市消防団 団 長 河田 政実
流山市消防団 団 長 梅澤 一雄 柏市消防団 副 団 長 長妻 勇

《秋の褒章 3 名》

《藍綬褒章》

野田市消防団 団 長 木名瀬訓光 船橋市消防団 分 団 長 平田 正彦
山武市消防団 団 長 高田 淳

《安全功労者総務大臣表彰 1 名》

浦安市防火安全協会 会 長 岡安 栄一

《自治体消防制度 75 周年記念 34 名・3 団体》

《総務大臣感謝状》

千葉県女性防火クラブ連絡協議会 会 長 竹内 久子

《消防庁長官表彰》

千葉県消防学校 副 校 長 家村 千昭

《日本消防協会会長表彰 特別功労者表彰》

千葉県消防協会 会 長 石橋 毅

《日本消防協会会長表彰 永年勤続功労者表彰》

市川市消防団 団 員 金子 秀夫 富里市消防団 班 長 小寺 光雄

船橋市消防団 団 員 竹内 貞則

《日本消防協会会長表彰 消防団員家族表彰》

船橋市消防団 分 団 長 森内 俊文 流山市消防団 分 団 長 廣木 克之

団 員 森内 英和 分 団 長 廣木 美恵

団 員 森内 孝幸 副 分 団 長 廣木 秀和

船橋市消防団 分 団 長 新井 衛 成田市消防団 副 団 長 赤崎 真辞

団 員 古宮 秀和 団 員 高木 善則

船橋市消防団 団 員 新井佑一朗 団 員 赤崎 龍雅

団 員 渡邊 一久 副 団 長 山崎 英企

船橋市消防団 団 員 渡邊 賢太 分 団 長 山崎 将平

団 員 渡邊 裕揮 分 団 長 山崎 伸太郎

松戸市消防団 分 団 長 荒川 信人 分 団 長 窪田 幸江

副 分 団 長 荒川 法広 分 団 長 窪田 豊輝

班 長 荒川 翼 分 団 員 窪田 観

松戸市消防団 団 員 長谷川智之

団 員 北川慎一郎

団 員 北川 利絵

団 員 北川 沙幸

《日本防火・防災協会会長表彰 優良幼年消防クラブ》

社会福祉法人千葉県福祉援護会 ローゼンかみやま保育園

《日本防火・防災協会会長表彰 優良少年消防クラブ》

小林小学校 少年少女消防隊

《日本防火・防災協会会長表彰 優良女性消防クラブ》

我孫子市女性防火クラブ

《文化の日千葉県功労者表彰 3 名》

千葉市消防局 消 防 長 白井 一広 鋸南町消防団 団 長 大胡 昌広

船橋市自衛消防協会 会 長 林 敬

令和6年度女性消防団員活性化シンポジウム

令和7年1月14日（火）にホテルポートプラザちばを会場に、公益財団法人千葉県消防協会が主催し千葉県の後援により、女性消防団員の士気高揚と活動の活性化を図ることを目的に、令和6年度女性消防団員活性化シンポジウムが開催され、30消防団115名の女性消防団員が参加しました。

初めに石橋消防協会長から開会の挨拶の後、後援をいただいた千葉県防災危機管理部消防課高岡課長から挨拶がありました。

続いて、特定非営利活動法人首都圏防災士連絡会講師の小野沢旬子氏から「災害時における防災食レシピと栄養管理について」と題する実演も含めた講演が行われました。

講演では、初めに賞味期限と消費期限の違いやその表示方法についての解説が行われ、災害への日頃の備えとしてローリングストック（循環備蓄）による食品の備蓄方法の紹介や炊き出しをする際の注意事項などについて話されました。また、被災後の時間の経過に伴う栄養管理の大切さを説かれ、災害時においてポリ袋を使ってご飯を炊く方法や蒸しパン、カレー、スパゲッティなどの調理を、ユーモアを交え参加者に問いかけながら実演が行われました。

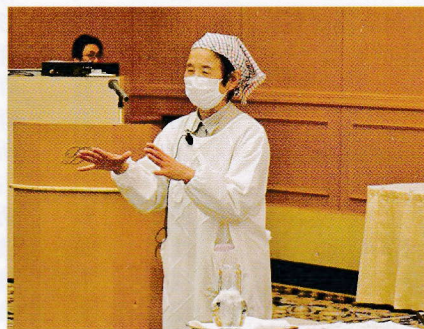
参加者からは、防災食レシピが案外簡単であることの気付きにより、「帰ったら作ってみます」、「地域に持ち帰り伝えたい」などの声が聞かれました。



石橋消防協会長



高岡消防課長



小野沢講師



令和7年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和7年度 消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ(<https://nrifd.fdma.go.jp>)をご覧ください。

【応募区分】

■消防職員・消防団員等の部

- A.消防防災機器等の開発・改良
- B.消防防災科学論文
- C.消防職員による原因調査事例

■一般の部

- D.消防防災機器等の開発・改良
- E.消防防災科学論文

【応募受付期間】

令和7年3月24日(月)～4月18日(金)

※4月18日(金)の消印有効

【表彰】

優れた作品には、11月に行われる表彰式(東京都内)において、消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。

表彰件数は次のとおりです。

●優秀賞

・消防職員・消防団員等の部

- A.消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- B.消防防災科学論文 5件以内
- C.消防職員による原因調査事例 10件以内

・一般の部

- D.消防防災機器等の開発・改良 5件以内
- E.消防防災科学論文 5件以内

作品募集!

令和7年3月24日(月)

>>4月18日(金)

消防防災科学技術賞

令和7年度

■募集区分

▼消防職員・消防団員等による応募

- A. 消防防災機器等の開発・改良
- B. 消防防災科学論文
- C. 消防職員による原因調査事例

▼一般による応募

- D. 消防防災機器等の開発・改良
- E. 消防防災科学論文

●全ての応募作品について、その「概要」を消防研究センターホームページで公開する予定です。

■表彰

●優れた作品には、令和7年11月に行われる表彰式(東京都内にて開催予定)において消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。

●受賞作品は、9月頃に決定・発表する予定です。

●詳細は、消防研究センターホームページをご覧ください。

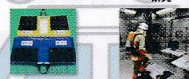
■連絡先

消防庁消防研究センター 研究企画部

TEL:0422-44-8331 E-mail: hyosho_nrifd@soumu.go.jp

消防研究センターHP : <https://nrifd.fdma.go.jp/>

令和6年度表彰作品例
年齢層の相違による暑熱環境の身体・認知機能への影響に関する研究



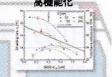
ゴムプラグから出火した火災事例について



静電気放電用クローンメータ



フォーターミストによる火災熱輻射の遮蔽の高度化



●奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例 3件以内

・6月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。

・受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

問合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画部

T E L:0422-44-8331 (代表)

E-mail:hyosho_nrifd@soumu.go.jp

東 西 南 北

東 西
南 北

心肺停止状態の男性を救命!

～適切な救命処置を行った4人に感謝状を贈呈～

船橋市消防局

船橋市北消防署では、令和6年7月27日（土）に感謝状贈呈式を行いました。当事案は、市内の中学校体育館内で運動中、心肺停止状態に陥った40歳代男性に対し、その場に居合わせた4人が協力し、救急隊が到着するまでの間にAEDの使用や胸骨圧迫等、迅速かつ適切な救命処置を行い、救命することができたものです。男性はその後、無事に社会復帰しました。

また、当市では、令和5年12月から全市立学校の屋内に設置していたAEDを学校体育施設開放時など学校職員が不在であっても、24時間365日いつでも緊急時に使用できるよう屋外へ移設しており、移設後初の奏功事案となります。



東 西
南 北

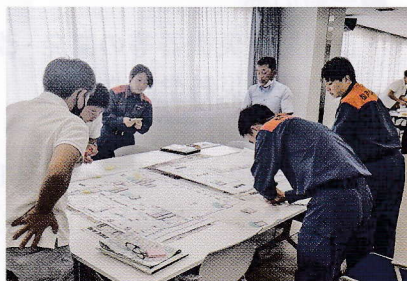
令和6年度防火・防災研修を実施

松戸市消防局

松戸市消防局では、令和6年7月29日、30日に、ちば北西部消防指令センター派遣経験職員及び能登半島地震において被災地に災害派遣された松戸市役所危機管理課職員を招き、防火・防災研修を開催しました。

指令管制業務の実情や被災地における避難所の様子などについて学ぶとともに、避難所運営ゲーム（HUG）を実施し、災害活動以外の状況を知ることができ、大変有意義な研修となりました。

今後も市民指導に対して必要な防火・防災知識の向上に努めていきます。



東 西
南 北

花火大会の会場で消防団活動の理解深化をPR

銚子市消防本部

銚子市消防本部では、令和6年8月3日（土）約7万人の観客で賑わう、銚子市みなとまつり花火大会のオープニングイベントにおいて、女性消防団員によるPR活動を実施しました。

地域住民の皆さんに団員の減少問題をはじめ、消防団活動に対する理解を深めて頂き、関心をもってもらうことで、団員確保につなげ、激甚化・頻発化する災害に対応出来る地域防災力の充実強化を目的としています。

消防団員によるPRにより、地域住民の安全・安心を守る消防団について、広く市民の方々へ理解を深めていただくことができました。

今後も各種イベントなどにおいて継続的に消防団PR活動を実施し、周知を図っていきます。



東 西 南 北 消防協力者に感謝状を贈呈 市原市消防局

この事案は、就業中に心肺停止状態となった傷病者に対し、双葉化成工業株式会社の同僚2名が連携して迅速かつ的確な救命処置を行い、無事に社会復帰されたものとなります。

この功績を称え、消防協力者のお二方に市原市消防局南総消防署長から、令和6年7月24日(水)に、感謝状を贈呈させて頂きました。

また、この消防協力者の2名の方は、市原市消防団に在籍し、消防ポンプ操法、実災害に対応した各種訓練、激甚化する自然災害、火災への対応など、日頃から地域防災のために積極にご尽力されておりますことに心から感謝を申し上げます。



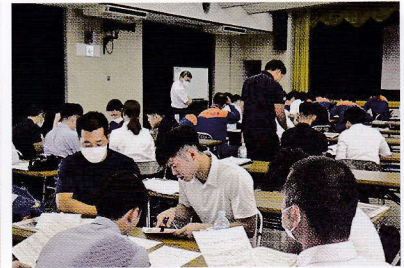
東 西 南 北 火災原因調査研修(火災調査報告書作成要領)を実施 松戸市消防局

松戸市消防局では、令和6年8月14日、15日の2日間で79名の職員に対して、火災調査報告書作成要領について研修を実施しました。

内容としては、座学で報告書のミスが多い点や報告書の書き方等を実施し、実技では「実況見分調査書を作成するための材料集め」と称して、見分内容が記載されているカードを選択し、出火箇所を説明するといった内容をゲーム方式で実施しました。

研修後のアンケート結果からは、火災調査報告書作成要領について理解することができたとの意見が多くあり、有意義な研修となりました。

今後もより精度の高い火災調査報告書を作成していけるように、職員一丸となって取り組んでいきます。



東 西 南 北 海上にて体動困難な男性を救出した3人に感謝状を贈呈 船橋市消防局

船橋市中央消防署では、令和6年9月2日(月)に感謝状贈呈式を行いました。

当事案は、同年7月に港湾工事をしていた3人が、海上の漁船内で体動困難に陥り倒れていた80歳代男性を発見し、応急処置を実施後、迅速な搬送や119番通報を行うとともに、消防隊が到着するまでの間も男性に水分補給や容体観察などを行い、現場に到着した消防隊へ無事に引き継ぎ、一命を取り留めたものです。

炎天下の海上という特殊な場所であり、救助行動を行う者が他に誰もいない状況ながらも、迷わず救助行動を行った3人の勇気ある行動に感謝の意を表し、船橋市中央消防署長から感謝状を贈呈いたしました。

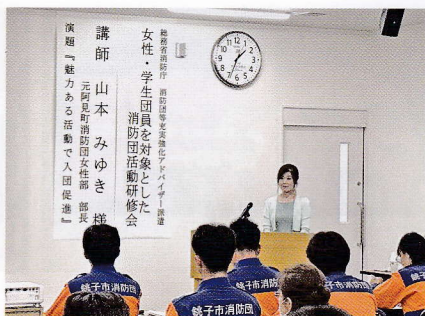


東 西 北 消防団等充実強化アドバイザーによる研修会を開催

東 南 鉾子市消防団

鉾子市消防団では、9月8日(日)、総務省消防庁消防団等充実強化アドバイザーである、元阿見町消防団女性部部長の山本みゆき氏を講師にお招きし、研修会を開催しました。

この研修会は女性・学生団員を対象としており、「魅力ある活動で入団促進」と題した講演では、女性の観点から阿見町消防団女性部の活動、東日本大震災や関東集中豪雨での災害ボランティア活動の話をして頂きました。さらに、地域防災訓練への参加、地域防災力向上の重要性を広く啓発されていました。そして、身近な物を活用した、市販のゴミ袋で作成する雨衣作りや新聞紙でスリッパを作る作業では、会場の出席者全員が参加して、活気に満ち溢れた研修会となりました。



東 西 北 令和6年度いちはら救急フェアを開催!

東 南 市原市消防局

昨今の救急需要の高まりにより、救急出動件数が年々増加している現状から「救急の日」に併せ、市内大型商業施設において「いちはら救急フェア」を開催しました。

当日は、救命処置体験、子供用の救急服や防火衣の着用体験、消防音楽隊による演奏会をはじめ、消防車両の展示を行い、家族連れなど幅広い多くの方々にご来場いただきました。

今後も、様々な形で興味をもってもらえるような広報活動に取り組んでまいります。



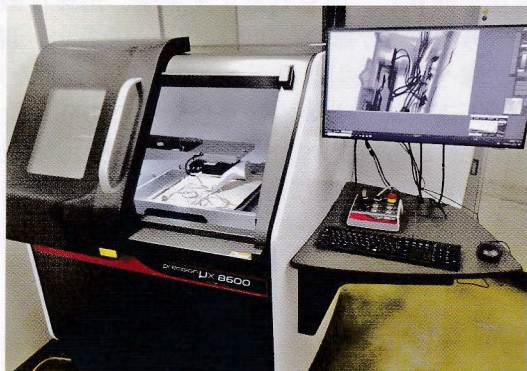
東 西 北 火災調査で使用する X 線透過検査装置を導入

東 南 松戸市消防局

松戸市消防局では、令和6年9月18日に火災調査で使用する X 線透過検査装置を導入しました。

X 線透過検査装置は、火災調査で製品等の分解鑑識を実施する前に非破壊で内部の状況を見分することができます。これにより、分解鑑識の際に製品が壊れてしまっても事前に内部の状況を見分したり、事前に内部の構造を確認することにより、分解鑑識を円滑に進めることができます。

また、千葉県広域消防相互応援協定書に基づく火災調査等特別応援実施要綱により、千葉県下の消防本部相互間における相互応援に該当となっております。



東
西
南
北

燃料電池災害対策講習を開催!

柏市消防局

柏市消防局では、自動車の次世代燃料として更なる普及が予想される水素とリチウムイオンバッテリーの安全性や火災発生時の対応を学ぶため、日本自動車研究所(茨城県つくば市)から講師を招き、御講義いただきました。

講習に参加した職員は、燃料の違いによる火災の特徴や消火方法など、新たな知識や活動上の留意点について、熱心に講師の解説に耳を傾け、大変有意義な講習となりました。

今後も新しい技術に遅れることなく、災害技術・知識のアップデートを図って参ります。



講習風景

東
西
南
北

第43回 火災予防ポスター作品審査会を開催

鉾子市消防本部

鉾子市消防本部では、令和6年9月20日(金)、市内小学校4~6年生から応募のあった火災予防ポスター134点を対象に、審査員として市内小中学校美術教諭の協力を頂き作品審査会を行いました。

作品審査会は昭和55年から始まり、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け実施を見合わせましたが、今年度で第43回を迎え、全国統一防火標語をモチーフに、小学生の視点で描かれた力作が揃いました。

作品審査会で選ばれた最優秀賞作品(市長賞)は、平成8年度から火災予防啓発ポスターとして印刷、火災予防運動に併せ市内各事業所へ配布し、児童を通じて防火の意識を市内事業所、各家庭に広く普及しております。



東
西
南
北

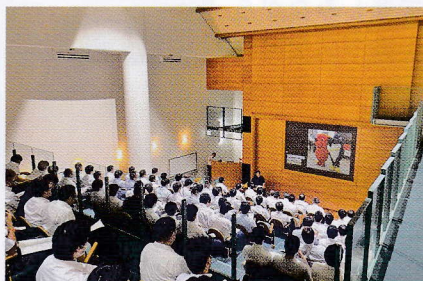
君津市消防団交通法規研修会を実施

君津市消防団

君津市消防団(平野宏行消防団長)では、令和6年8月18日(日)に君津市立中央図書館において、千葉県君津警察署 交通課 小保方警部補を講師に招き、交通法規研修会を実施しました。

研修会では、主に一般的な交通事故防止対策や緊急走行時の注意事項などについて講義いただき、受講した団員からは「緊急車両の運転に対し、注意することや考えなくてはならないことの視点が広がった。」「普段の生活でも気を付けることに改めて気付かされた。」など、緊急車両の走行のみならず、私生活につながるなどの声も上がりました。

今後も消防本部と連携し、定期的な訓練や研修を実施することで本市消防団の充実強化に努めてまいります。



日々の動き

防災危機管理部 / 消防協会 共同編集

令和 7 年 3 月

- 5日 千葉県消防大会(青葉の森芸術文化ホール)
- 6日 日本消防協会役員会(ニッショーホール)
- 7日 日本消防協会定時理事会・評議員会(ニッショーホール)
日本消防協会定例表彰式(ニッショーホール)
- 18日 千葉県消防協会定時理事会
- 25日 千葉県消防協会臨時評議員会

2024年度 全国統一防火標語 「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和 7 年春季全国火災予防運動

3月1日(土)から3月7日(金)までの7日間

重点推進項目

- 1 地震火災対策の推進
- 2 住宅防火対策の推進
- 3 林野火災予防対策の推進

推進項目

- 1 防火対象物等における防火安全対策の徹底
- 2 製品火災の発生防止に向けた取組みの推進
- 3 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底
- 4 乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進
- 5 木造飲食店等が密集する地域に対する火災予防指導等の徹底
- 6 放火火災防止対策の推進

< 表紙の説明 >

きさらづ防災フェスタ 2024 における消防団 PR 君津支部

木更津市消防団では、令和6年11月30日(土)にイオンモール木更津で実施された「きさらづ防災フェスタ2024」において、消防団PRのためのブースを出展しました。

本フェスタでは、写真にある「紙芝居」のほか心肺蘇生の流れを学ぶ「応急手当訓練」や子供を対象とした「放水体験」など、親子で楽しみながら学べる複数のブースを設置し、加入促進や防災啓発を行いました。

今後も木更津市消防団では、地域の安心・安全を守るため、市内の防災イベントや消防の各種行事などにおいて、積極的な啓発活動を続けてまいります。

